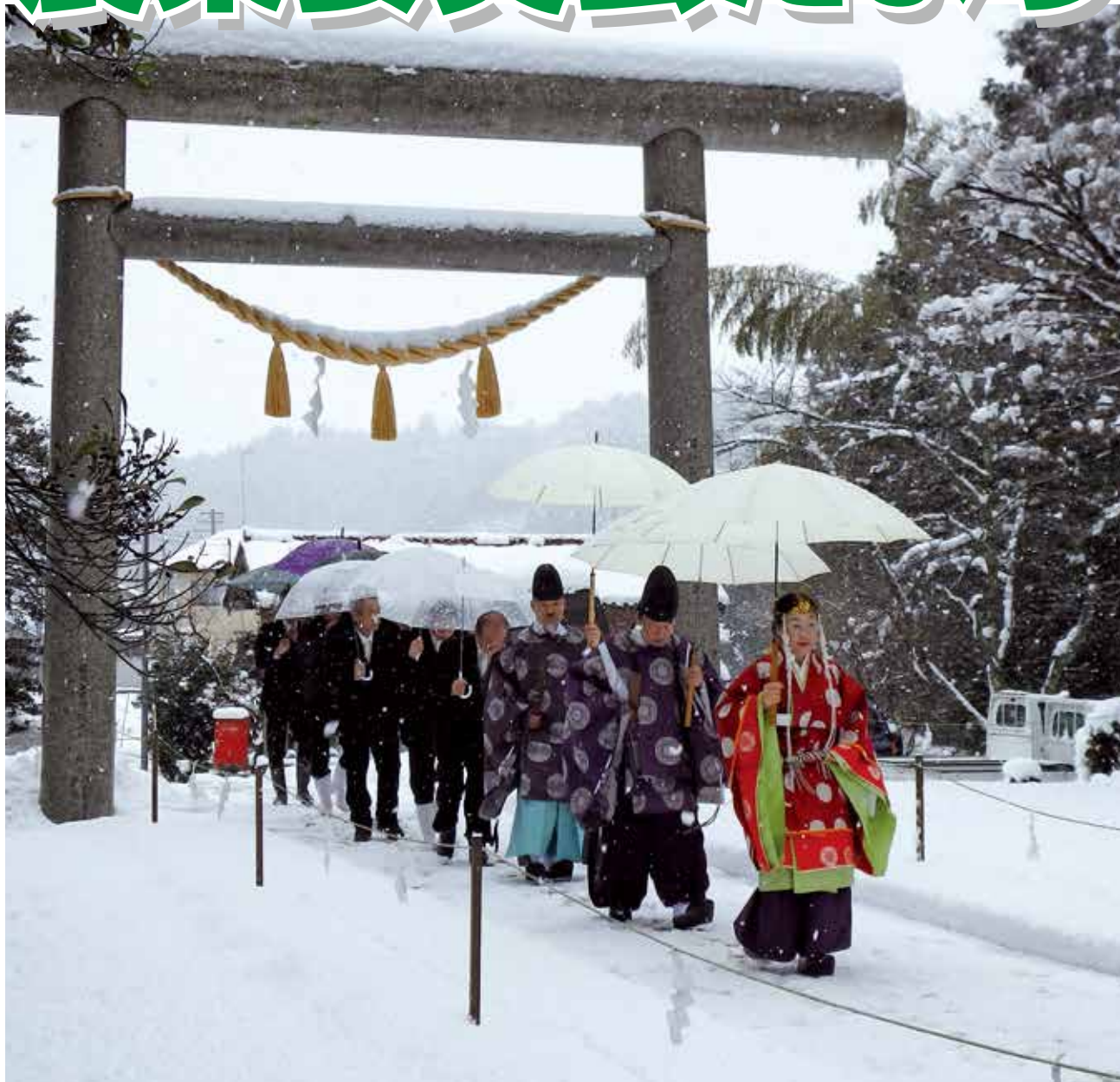


農業委員会だより



ひぬまな い にいなめさい
比沼麻奈為神社新嘗祭(峰山町久次)

昨年12月14日、雪の舞う日でありましたが、その年の収穫を祝う神事が行われました。(写真 藤原高志委員)

● 目 次 ●

- 2~3P **農を語る** 熊野酒造有限会社
代表取締役 柿本正大さん (久美浜町)
- 4P **ぼいす 一声ー** 会長 梅田和男
- 5P **農業者年金**
- 6P **給食生ごみの資源化を開始しました
鳥獣害対策事業について**

7P **がんばってます!!**

8P **京丹後アグリ瓦版**

9P **京丹後紀行『焼畑』**

10P **新しい郷土料理 ーコッペ丼ー**



▲右は後継者の達郎さん

【純米吟醸・杜氏の独り言】

「コシヒカリはそりやあ食う分にはうみやあけど、酒にはあかんとちがうか？あれ、こりや思ったよりエエもんができたがな。コメの味がよう出て酒好きの人にはエエなあ。」

但馬杜氏 井岸泰雄

「純米吟醸・杜氏の独り言」のラベルに書いてありました。

今、力を入れて作っているお酒は、純米酒です。純米酒は使っている米の味が素直に出ています。「純米吟醸・杜氏の独り言」は、

農を語る



熊野酒造有限公司

代表取締役

柿本 正大さん (61)

1月7日(水)、久美浜町の造り酒屋であり、「久美の浦」の名前で親しまれている「熊野酒造有限公司」を、新酒の仕込みの忙しい中、訪問させていただきました。

【屋号・亀屋】

なぜ屋号を亀屋と言うのか？
先々代が肥料等を売る店を興し、その店の屋号が「鶴屋」だった。しかしうまくいかず閉店した。その後、造り酒屋を始め、鶴でダメだったので、屋号を亀にしたのだと言う話を聞いています。
「鶴は千年、亀は万年」お酒は百薬の長、酒屋の屋号にぴったりだと感じました。



【食文化】

丹後・久美浜の食文化の一翼を、お酒も担っていることに誇りを感じます。

近年多くのイベント等にお酒を持って行きますが、都会の人・地元の方々がお酒を酌み交わしながら楽しそうに交流を深めておられる様子を、嬉しく見せてもらっています。これからいろいろなイベントに参加し、人々の交流の役にたきたいと思っています。

【頼もしい後継者】

長男・達郎(31歳)と一緒に仕事をしています。息子が最近、井岸杜氏の指導を受けながら杜氏の仕事の半分くらいカバーできるようになってきました。しっかり勉強

【農家の皆さんへ】

強して「久美の浦」の味をこれからも引き継いでいってほしいです。
また、近年、達郎の発案で外国へも出荷しています。香港では日本の食品は安心感があると言うことで評価が高く、お酒の売れ行きも好調です。

日本のコメは世界で一番信頼されていると思うので、大変だとは思いますが、米づくりを大切にしたいです。そして丹後の小さな造り酒屋ですが、丹後で出来たお米を使ったお酒を造り、造ったお酒を地域の方に楽しく飲んでいただきたいと思っています。そして、これからも農家の皆さんと一緒に「地域の食文化」を守っていききたいです。

自信を持って言えます。丹後のお酒はどれもおいしいです。日本・外国、どこに持って行っても恥ずかしくないです。(正大)

取材／大場 耕作委員

全国農業新聞を購読してみませんか？

全国農業新聞

全国農業新聞は公的機関である農業委員会系統組織が発行する週刊の農業総合専門紙です。「週刊」ということから日々の報道には限界がありますが、むしろ週刊の時間を活かし、大切な情報をわかりやすくまとめています。

また、多くの読者の皆様に満足して頂けるよう、家族全員が楽しめる記事も充実しています。さらに、全国47都道府県にある支局の充実により、地域の元気で特徴ある明るい話題や地域独自のイベント情報などの提供に努めています。

お知らせ
平成27年4月から購読料月額600円が700円に改定されます。

国が支える 担い手積立年金

～ 安心が大きくなる ～

【愛称】

～ しっかり積立て、がっちりサポート 安心で豊かな老後を ～

- ☆ あなたの老後生活への備えは十分ですか？
- ☆ 年金は家族一人ひとりについて準備することが大切です。
- ☆ 老後の備えは国民年金プラス**農業者年金**が基本です。

① 65歳の農業者の方の平均余命は 男性22年(87歳)、女性27年(92歳)

老後はお金の心配をせずに暮らしたいものです。その間予測不可能な経済変動があり、思わぬケガや病気もあります。

※ 日本人の平均余命は男性84歳、女性89歳となっており、農業者年金加入者の平均余命の方が長くなっています。

② こんなにかかる老後生活 (現金支出で年額約286万円)

高齢農家世帯(世帯主が65歳以上の夫婦2人)の家計費は、現金支出で**月額約23万8千円**が必要となります。

③ 国民年金の支給額(年額154万6千円)

農業者の皆さんが加入している国民年金の支給額は、40年加入で**月額約6万4千4百円**、夫婦あわせて**月額約12万8千8百円**です。

このように、豊かな老後生活のためには、国民年金だけでは十分と言えず、**老後の生活費は自分で準備**する必要があります。

サラリーマンは国民年金(基礎年金)の上乗せ年金として、厚生年金や共済年金(厚生年金のモデルケースでは夫婦お二人で年額約272万3千円、月額約22万7千円)を受け取っています。

農業者の皆様も、メリットがたくさんある**農業者年金**に**加入**して安心で豊かな老後を迎えましょう。



◆ 農業者年金に加入すれば ～ 農業者年金の支給額(年額)の試算 ◆

加入年齢	納付期間	運用利回り 2.5% の場合		運用利回り 3% の場合	
		男性	女性	男性	女性
20歳	40年	84.0万円	71.7万円	92.5万円	78.9万円
30歳	30年	55.8万円	47.6万円	60.1万円	51.2万円
40歳	20年	33.0万円	28.2万円	34.8万円	29.7万円
50歳	10年	14.7万円	12.6万円	15.2万円	13.0万円

注) この試算は、通常加入で保険料月額2万円で加入し、65歳までの運用利回りが2.5%及び3%、65歳以降の予定利率が1.05%となった場合の試算です。

制度発足以降の12年度間の運用利回りの平均は、年率2.53%です。

予定利率1.05%は、農林水産省告示(H26.4.1施行)により定められている率です。

* 各金額は単位未満を四捨五入により表示しています。



「農業委員会は今」

農業委員会会長

梅田和男

では市長に、都道府県にあっては知事に、農業委員会全国組織にあっては政府に対して法律に裏付けられて、意見する役割を担っています。



しかし、法律の裏付けを無くすことによりその意義は薄められてしまつたろうと考えています。

これら「農林水産業・地域の活力創造プラン」と呼ばれる制度の変更は、農業の状況を考慮していない大きな力の行使ではないだろうかと思つております。

現在、京都府の農業委員会上部組織においても、全国組織とともに納得のいく内容にすべく、政府・国会議員に対し働きかけを行っています。が、その道は険しそうです。

農業の更なる発展には「生みの苦しみが伴う」と言われそうですが、この法律が施行された時にはいずれにせよ各地域での混乱が予想されます。

京丹後市では現委員の任期が満了するのが平成28年6月末となっています。そのため、この改正される「農業委員会等に関する法律」の施行時期によっては「激変」する制度に満足な対処ができるのか不安が募ります。

この制度変更はよく言われる「高度な政治判断!!」なのだろうが、政府が考える「真の国益―国民の幸福―栄える農業―」私には今その姿を見出すことはできない。

政府は平成26年6月24日に決定した「農林水産業・地域の活力創造プラン」により「農業委員会等に関する法律」などの制度改革を進めています。

このことにより、農業委員会の在り方、運営、活動が大きく変わろうとしています。

主な内容は、

○委員定数の削減、それに伴う農地利用最適化推進委員(仮称)の設置

○公職選挙法による委員選出を廃止し、市長による選任制への変更

○法定化されている「意見公表、建議」の非法定化

など、現在におかれている農業、農業委員会の状況において、逆風しか受け取れない内容となっています。

定数削減については、京丹後市では、平成16年に行われた6町合併により、128名の委員が37名となつ

ており、すでに大幅な定数の削減が行われています。これにより各委員が担当する地域の増加、現地確認、農地現況調査などの業務は大きな負担となっているところです。また、新たに設置される「農地利用最適化推進委員」の選任と業務運営についても混乱が予想されます。

公選制の廃止については、委員の「地域の代表」としての信任と誇りが担保されるのか不安があります。

また、市長に選任される委員はその半数を認定農業者で女性農業者も数名入れるなど、耳触りの良い内容となっていますが、実際のところ、第一線で手一杯の経営を行っている認定農業者や女性農業者が、時間の制約を伴う業務に従事できるのか疑問がのこるところです。

「意見公表、建議」については、現在は農業委員会が農業者の代表として、農業政策、施策に反映させる為に農業者の声をまとめ、市にあつ



▲ 終始笑顔で仲の良いお二人でした。

【趣味】

恒雄さんは、大きな機屋の長男として生まれました。小学生の時から少年野球に入り、中学・高校も続け、勉強との両立の日々だったそうです。今も趣味の野球を人との交流を大切にしながら続けています。

冬場は、近くのスキー場のお手伝いをしながら、スキー、スノーボードを楽しみ、インストラクターとしても頑張っています。

奥さんの奈美さんはソフトバレーを楽しんでおられます。

【就農のきっかけ】

恒雄さんは、もともと、農業は好きではなかったのですが、4年余りの会社勤務の間にリーマンショック等世の中の不安定条件が色々重なり、思い描いていた給料も程遠く安かったため、職場を数回変わり「使われる身は自分には向かないのでは？」と悩んでいた時、お父さんの「うしろ姿」を見て考えが変化しました。自分の意思で計画を立て作物を栽培する喜び、魅力を肌で感じ「やり方ひとつで儲かる…」と脳裏に閃き、一大決心。農業に夢を託しました。

自分の計画で作物を選定し、作付していることから仕事がつくても、休日がたとえ少なくとも大丈夫。振り返って過去一度として後悔することなく「今日まで良かったなぁ」の一言に尽きると力強く語っていただきました。

【経営内容】

年々、規模拡大して、現在国営畑 4ha 弱で、大カブ 2ha、ゴボ丹（短形ゴボウ）60 a、人参 40 a、大根 5 a の 4 本の柱です。ブロックローテーションを考えながら植付して J A 出荷を中心に小売り、加工業者向け出荷と上手に振り分け、有利販売に努めています。

【まとめ】

自宅と大カブほ場で 1 時間 30 分取材した私は、自分が満二十歳で父から全権任されて嫌々ながら、また、仕方なしにスタートした当時と比較して、池邊さんのしっかりとした考え、行動には本当に脱帽しました。

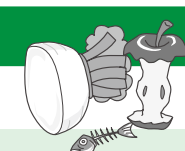
奥さんの笑顔と、ご夫婦の目の輝きは「力を合わせてやるんだ…」という意志が全身に伝わってきました。

超高齢化目の私は、国営開発団地のメンバーの一員として、我が事のように嬉しい限りです。

取材 / 山副孝雄委員

がんばってます!!
畑作農業に全力投球

給食生ごみの資源化を開始しました!



○給食生ごみの資源化に着手

市では、昨年 8 月から市内の保育所と幼稚園、次いで、9 月からは小学校、中学校の給食生ごみの分別回収に着手し、市エコエネルギーセンターで資源化を行っています。一部の学校では、液肥で栽培した特別栽培米「環のちから」を給食で提供するなど、地域内での資源循環の環が広がりつつあります。

○環境学習を推進

これまで焼却処分されていた給食調理の際の生ごみが、電気や液肥として生まれ変わる「生ごみ資源化の取組」は、環境学習の身近な材料としても最適。取り組みの内容を実際に「聞いて・見て・触って」体感してもらうため、今後は、市内の小中学生に施設を見学していただき、資源の循環の体感を通して環境について考える機会を提供していく予定です。



○エコエネルギーセンターは常時見学可能です

エコエネルギーセンターには、市内外から毎年多くの方が見学に訪れています。平成 25 年度は海外の方も含め延べ 469 人の方が施設を訪れました。どなたでも見学出来るので、地区やグループなどでもお気軽にお越しください。見学は事前の予約が必要です。詳しくは環境バイオマス推進課(Tel 69-0480)へお問い合わせください。



鳥獣害対策事業について

京丹後市では鳥獣害を防止するため平成23年度より国の補助事業を利用した防除対策を行なっています。

毎年、各集落から防除資材等の要望をいただき、平成26年11月までに総延長357キロメートルの防護柵等整備が完了しました。

市としては効果を上げていることから、今後もこの事業を活用し防除対策に取り組むこととしています。しかし、国の事業の見直しにより平成27年度からは従来の防護柵設置に加え、檻やICT(センサー)を使用した「防除と捕獲の一体化」による設置が要件となる見込みです。

本事業を活用される場合は集落または団体でご相談のうえ農林整備課(Tel69-0430)へお問い合わせ下さい。





京丹後紀行
焼畑
 焼畑は、福田川の最上流に位置する山間の地にあり、「焼畑」の典型をなす地名であり、「焼畑」は、当地の言葉では「カリユウ」といい、昭和三〇年代までは行われていたようである。山すそなど傾斜地で灌木や草を切り払って焼き、その灰を肥料として大根、アワ、ソバ、小豆などの雑穀を作り収穫した。

遠き世の山火ぞ映ゆる埴輪の瞳

福田蓼汀

こんな話をしてくださった。

その頃は、ほとんどの家で牛を飼っていて、学校の休みの日には、牛に食べさせる草を兄と私で刈りました。風呂は、五右衛門風呂で水道もなかったため、山から引いた水をためる水槽からバケツで汲んだ水を何回も運んで風呂水を張るのは兄の仕事でした。そして、風呂を焚くのが私の担当だったのですが、両親・祖父母が野良仕事から帰ってきたらすぐに風呂に入れるようにしとかなあかんの、兄が遊び惚けて帰りが遅いときがあった、そんなときは女の私が風呂水も張らなあかんので大変でした。他にも手伝いは、麦踏み草とり、稲の束を運んだりなど忙しかったですが、今になればそれも楽しい思い出です。そして、お駄賃にももらったお金を落とさないように握りしめ、縁日の夜店で、アメや菓子、風船等を買うのは最高に嬉しかったです。

切畑は、西に切畑権現山（標高四四一メートル）を望む山紫水明の地でもあり、ミネラルを含んだ名水がある。名水が湧き出るといことは、土壌もまた豊かだということ。水は川上から川下へ、そして海へ。人々は、古から自然と共存しながら生きてきた。

今年、「国際土壌年」。土壌の持つ意味を正しく認識するとともに、未来に繋がる大切な生命を守る基盤と位置づけたい。「農」の根源もそこにあるのだから。

○人形 久美浜町佐野出身、愛知県瀬戸市在住
 増田 重幸さん作
 ○文 鴨田 忠司

大宮南おふくろSUN工房

大宮南地域里力再生協議会の「大宮南おふくろSUN工房（代表：川口礼子さん、構成員8名）」では、地域の農産物を使い、漬物やこんにやくなどの加工品の製造・販売を行っています。時には料理教室も開催し、地域の振興、交流を図るため活動を展開されています。



▲笑顔が絶えない楽しい活動の一コマ
 （写真：里の仕掛人 兼頭みさ子さん提供）

五箇どんど焼き



1月18日五箇小学校グラウンドに於いてどんど焼きが行われました。大きなやぐらは五箇地域の老人会や地区公民館・各区の有志の方々により組まれ、子供達や地域の方々が字の上達や無病息災を願って行われました。

鳥取保育所 どんど焼き

今年も元気に過ごせるよう園児たちが願いを込め行ないました。
 （写真 山副孝雄委員）



～新春もちつき大会～

網野町障害児者の生活と権利を守る会（松田友美会長）主催により1月25日（日）アミティ丹後にて、今年で30回目の餅つき大会が開催されました。会員150名が参加し、楽しいひと時を過ごしました。



～もちつき、楽しい！～

（写真 網野町障害児者の生活と権利を守る会 提供）



～みんなで丸めます～

懐かしき一コマ

昭和10年頃の苗を育てる温床作りの風景です。竹やワラを用いて箱型を作り、中に落ち葉、ヌカ、堆肥を敷き詰め踏み込んで熱を持たせます。一番上の上層部には土を敷いて野菜苗やサツマイモの苗を作っていました。



（写真提供 東宇義夫委員）

新しい郷土料理

コッペ丼

【材 料】 1 人前

- コッペ蟹（湯がいたもの）… 1 ぱい
- 卵… 2 枚 ○三つ葉… 1/2 束
- もみのり… 少量
- 合わせ煮汁
- だし汁…………… 80 ～ 100cc
- しょうゆ…………… 大さじ 1
- 砂糖…………… 大さじ 1

【作り方】

1. コッペの甲羅をはずし、中に詰まっているみそ等をスプーンなど使ってきれいに取り出す。足の身はすりこ木などを利用し取り出し、外子はスジを取り除く。
2. 三つ葉は 3 ～ 4 cm に切る。
3. 卵は溶きほぐし、切った三つ葉を少し入れて合わせる。
4. 熱いご飯を丼に盛る。
5. 1 人前の小鍋に煮汁、①で取り出したみそ等入れ、煮立ったら溶き卵を流し入れ、ご飯の上にすべらせるようにのせ、三つ葉ともみのりを散らす。

ちよつとつッ！

京丹後市観光大使
コッペちゃん



- 卵は半熟で火を止め、ご飯にのせ、ふたをし、蒸らすとよい。
- 汁の分量は、表面から途中まで染みて、下は白いご飯位がよい。

どうぞ召し上がれ。

味覚です。

冬を代表する日本海の

二ヶ月。年々短くなつてお

ります。

コッペ蟹は乱獲を防ぐ

ため漁期は、11月、12月の

やまない井の出来上がり。

調理していただく。愛して

必要不可欠。ご飯の上に自

分好みの食材を美味しく

その上、井には、お米が

必要不可欠。ご飯の上に自

分好みの食材を美味しく

その上、井には、お米が

必要不可欠。ご飯の上に自

分好みの食材を美味しく

その上、井には、お米が

必要不可欠。ご飯の上に自

分好みの食材を美味しく

その上、井には、お米が

必要不可欠。ご飯の上に自

分好みの食材を美味しく

その上、井には、お米が

必要不可欠。ご飯の上に自

分好みの食材を美味しく

その上、井には、お米が

必要不可欠。ご飯の上に自

分好みの食材を美味しく

その上、井には、お米が

必要不可欠。ご飯の上に自

分好みの食材を美味しく

その上、井には、お米が

必要不可欠。ご飯の上に自

分好みの食材を美味しく



川瀬 明美 委員



金賞受賞

京都府農業会議主催の「第24 回京都府農業委員会広報コンクール」に於いて、平成26年に発行した「京丹後市農業委員会だより」が平成18年から連続9回目の金賞を受賞しました。これもひとえに皆様方のご協力によって得たものであります。今後とも親しみやすい広報誌づくりを心掛け、より良い広報活動を続けますので、ご指導ご協力の程、よろしくお願ひします。